

澄んだ瞳

第77号
令和6年8月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

8月は、「人権文化をすすめる
けんみんうんどう すいしんきょうちゅうげっかん
県民運動」推進強調月間です！

「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重
することを、自然に感じたり、考えたり、
行動することが「当たり前」になった生活
をいいます。

「うれしかったこと」

しゅつがうのうたをうたがうして、たく
んのももだちができました。がっこうたんけ
んにいったり、がくぶつであそんだりするの
がたのしいです。おねえさんたちとはなしを
しながら、がくぶつをくめるのもたのしいで
す。がくぶつをくめるのもたのしいとき、
おねえさんが
「だうじゅしゅびびのほけんしゅしゅしゅしゅ
しゅしゅな。」

(小学1年生)

「はじめのびょうじつ」

今日、はじめてびょうじつでかみの毛を切
りました。前がみは、家でお母さんが切って
くれていたけど、後ろのかみの毛は、赤ちゃ
んときからのばしていました。わたしは、
長いかみの毛を切ってしまうのは、ちょっと
さみしいなと思いました。

でも、びょうじでかみが
なくなってしまう人が
ウィッグをつくるために、
わたしのかみの毛を
とどけたかったので、
切ることにしました。
かみの毛を切ってみると、
おぶろのときのシャンプーが
らくになったり、みんなに
かわいいと言ってもらったりして、
うれしかったです。



(小学2年生)

「やさしさのバトン」

やさしさのバトンをほくもつなげたい。
どうとくで「やさしさのバトン」のお話を
学習しました。お話のないようは、目の不
自由な人がバスでお仕事へ行くときのだ
すけを小学生の子たちが自分からはじめ
て、下の学年の子たちがつづけていったとい
うものです。

ほくは、このお話を学習して、みんなで
たすけあうことがとても大切だなと思いま
した。理由は、みんなですけあったら、う
れしい気持ちみんなに
伝わって、えがおになれ
からです。
ほくもお話「つづけた
人たちみたいに、やさしさ
のバトンをつなげたいです。」



(小学3年生)

「みんなで助け合い」

ぼくは小さいころから「コンビニやスーパーマーケットにあるばいばい箱を見つけたら、お母さんにお金をもらって入れていました。何のためかはお父さんから聞いて、入れるのが楽しくてお兄ちゃんときょうそうするようにお金を入れていました。さらに学校でも時々ある、赤いはね共同ばいばい箱にも何となく良いことに使われているのかなと思いが、ばいばい箱を使いました。

これらのお金が何に使われているのか、疑問に思ったので調べてみました。すると、生活にこまっている人や体の不自由な人、地しんなどの大きなさいがいにあつた人などのために使われていることがわかりました。最近の石川県能登半島地しんや、東日本大しんさい、阪神あわじ大しんさいなど大きなさいがいがあつた時にも、たくさんのばいばい箱がみんなの生活をを守るために使われたそうです。ぼくの入れたばいばい箱は少しだけ、そんなふうになつて役に立っていると思つてうれしくなりました。他人事とは思わずに、これからも助け合いをしていきたいです。

(小学4年生)



「成長した自然学校」

自然学校の四泊五日で、最初、私は家族とはなれるのがさみしくて泣いてしまいました。でも、泣いた時、それだけ家族が大切なんだなと気づきました。さみしかったけど、四泊五日間、すごすことができたのは、まわりで友だちがいてくれたからです。これから友だちが困っていたり、悲しい思いをしていたりしていたら、次は自分が助けたいです。自然学校は、自分をすく成長させてくれたし、自分に自信を持たせてくれました。これからも自分でできることは自分でしようと思えました。そして、もっと成長したいと思えます。最初、さみしくて泣いてしまった自然学校だったけど、行って本当に良かったです。

(小学5年生)



「困ったときは、お互いさま」

今年の元日に起きた能登半島地震の被災地に、私の父が二月二十五日から七日間、石川県七尾市の災害ボランティアセンターの運営の仕事に行きました。

父はボランティアに来てほしい人と、ボランティアをしたい人とを結びつける仕事を

していたそうです。被災した人が少しでも地震が起きる前の生活を取り戻してもらいたい、困っている人が少しでも安心して生活をしてほしいと思つて仕事をがんばったそうです。

私は父からの話を聞いて、復興を目標にし、被災した人も応援に行く人たちも、心をつなぐ協力しているのだと思えました。私は、父が知り合った人で、地震で家を失ってしまった人の話を聞きました。その人は市役所の人で、毎日避難所から仕事にきていたそうです。私と同じくらいの子どもがいて、家族みんなが野球をしているので、「心をつなぐ」と野球ボールにメッセージを書いて送りました。数日後、お礼のメールが来ました。そこには、相手から応援に行つた船「はくおつ」の中にあるお風呂に、家族みんなが入れて、とてもうれしかったとも書いてありました。

「困ったときは、お互いさま」の気持ちがあれば、辛いこともたくさん乗り越えられると思えます。この気持ちは災害時だけの話ではありません。「困ったときは、お互いさま」の気持ちを普段から持ち続けていこうと思えます。

(小学6年生)

「中学生ペーロン体験乗船を終えて」

ペーロン体験乗船では、たくさんの学びがありました。

一つ目は協力することです。最初はみんなで何となく声を出している様子だったけど、指導者の方々が、

「みんなでもっと一つになつてー！」

と言ってくれました。そこからかけ声や漕ぐタイミングなどがそろってきました。協力して一つになると、すごい力になることを実感できました。

二つ目は声かけをする大切さです。練習の時は声を出すことより、太鼓やドラを叩いたり、漕いで漕いだりすることに必死でした。そんな時に、

「しっかりと声を出してー！」

と指導者の方々や先生がアドバイスをくれました。そこから「一・二・三」や「そーれ」など全力で声を出すと、船の進むスピードだけではなく、雰囲気も良くなり、声を出す大切さが分かりました。

このペーロン体験乗船

では、クラスの絆を

深めることができました。

さらに好タイムを出す



ことができ、とても

うれしかったです。私たちのクラスはすごい力を持っているということを実感し、自分に自信を持つことができました。今回の経験をさせてくださった多くの人に感謝し、学びを生かし、これからもがんばっていききたいです。

(中学1年生)

「力強く生きる」

私には、生まれつき病気を持っている弟がいます。弟は可愛くていつも明るく家族のムードメーカーのような存在です。けれどもしばしば、両親になんでも許されてきた弟が少々妬ましく感じることもあります。

今年の夏、弟は神戸で大きな手術と三ヶ月間の入院をしました。両親は弟に付きっきりで、私は一人で家にいることがよくありました。ご飯やお風呂、洗濯、犬の世話など一人で全て自分だけできていました。不安や責任感と同時に弟を羨ましく思いました。ある時、私は弟に

「しっかりとよー！」

「みんなはできるのになんでできないの？」

と心ない言葉を言ってしまったことがありました。そのことをとても後悔しました。なぜなら、母は弟なりに全力で頑張っているんだと言っていたからです。まだ腹を立ててしまうこともあるけれど、私は障がいがある弟を理解しようとしています。

どんなに弟が羨ましく感じても、弟がいてよかったです。弟がいないかったら、弟のことを理解するのが難しかった私は障がい者の方に心ない言葉をかけていたと思います。

「みんなと違う」からという理由で障がい者の方に冷たくしたり悪口を言ったりしてはいけないと思います。その言動で人が傷つくからです。

私の家族も弟の障がいに向き合って頑張っています。障がい者の方に向き合って理解してくれる人を増やしていきたいです。心ない言動をしている人がいたら注意できる人になりたいです。

私は弟のおかげで知ることができました。いつも明るく笑顔で頑張り続けている弟を私は尊敬しています。

(中学2年生)



「偏見・差別・思い込み」

アンコンシヤス・バイアスとは、自分では気づかないうちに、心の中に持っている無意識の偏ったモノの見方のことです。

私たちは普段、生活をしていく中で、根拠のない思い込みや偏見を持ってしまいがちです。

私も実際にそのような経験をしたことがあります。周りの人からは、私は周りを見て行動することが得意で、みんなをよく引っ張ってくれると見られることがありました。

「みんなを引っ張っているからリーダーになつてよ。」

「しっかりとしているから、これからよろしくね。」

など頼み事をされたことがありました。私は自分がしっかりとしていると思ったことはないのに、決めつけられているような感じがして少し悲しくなりました。しっかりといると言われて、嬉しい人もいれば、そうでない人もいます。人によって解釈はそれぞれです。

アンコンシヤス・バイアスは誰にでも思い当たるものだと思います。無意識なので、

相手を傷つけたりしていることに、気づいていない場合があります。もし、傷つくようなことを言われて嫌な思いをしたら、それを言葉にして伝えることが大事だと思います。なぜなら、言った本人は無意識なので知らず。



お互いを理解し合い、感じ方の違いがあることを学んでいくことが、よりよい社会をつくっていく上で、大切だと思います。

(高校1年生)

「人権の集い」

出演 スマイリー キクチさん

講演 「インターネットと人とのかわり合い」

突然、僕は殺人犯にされた」

日時 8月7日(水) 18時00分開演

会場 相生市文化会館大ホール

「非核平和展」

日時 8月1日(木)～15日(木)

(※6日、13日、14日、は休館日)

会場 相生市文化会館(1階エントランスホール)

内容 非核平和ポスター、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルの展示等

※全て入場無料



家庭対話ウィーク

7月20日(土)～26日(金)

心と心を受けとめ合う会話、肌と肌で感じるぬくもりのあるふれ合い。安心して、お互いの気持ちを話し合う場所が家庭です。話をゆっくりと聞き合う機会が少なくな

ってきていると言われます。

家庭は人権文化の最前線

とも言われます。

あたたかい家族の関係を

みんなで育んでいきたい

ですね。



家族間のコミュニケーションを円滑に

□ありがとうじいめんなさいを言う

□あいさつをする

□約束を守る

□うそをつかない

□話をすすむときは相手の目を見る

※家族だからこそ、特に大切にしたいことですね。

